

〔曲名〕 La Traviata fantasia

歌劇「椿姫」幻想曲

〔曲種〕 Fantasia

幻想曲

〔作曲者〕 Giuseppe Verdi

ジュゼッペ ベルディ

〔編曲〕 Jiro Nakano

中野二郎

新しい傾向の作品になるほど、メロディーの美しさは後方に追いやられた感がある。

マンドリンの世界でもこれは云えることで、リズム、和音、その他の魅力にとりつかれてメロディが忘れ去られつつある。

大正から昭和の初期にかけては屢々（しばしば）プログラムを飾ったオペラの幻想曲は今や全く影を潜めて了ったが、

メロディの国イタリアの歌劇の巨匠ヴェルディのものは、その中でも特にメロディの宝庫で、此処に挙げた椿姫幻想曲で満喫されたい。

従来この椿姫幻想曲はマルチェルリ編曲のものがマウリ版で出版されており、之が行き亘（わた）っているが、

選曲に稍（やや）妥当性を欠き愛奏されていない。

筆者は之に大幅に手を加えて取捨し前後に三つの佳曲を加えた。

開幕に先立つ悲劇的主題の前奏に始まる。

続いて華やかな晚餐の場面から「乾杯の唄」、ヴィオレッタの歌う「あゝそはかの人か」になり、常に歓楽を追っている狂的に歌う部分が続く。

更にアルフレッドの父が息子を慰める有名な歌「プロヴァンスの海と丘」、之に第一幕のワルツその他が加わり、

どれ一つとってもメロディの泉で、ヨーロッパの地でオペラの隆盛になった理由を垣間見る思いがする。

マンドリン古典合奏曲集32集より